

中堅私立大学の経済学教育 における事前事後学習

篠崎 剛・東北学院大学経済学部

細谷 圭・東北学院大学経済学部

前田 修也・東北学院大学経済学部

2016年9月8日

教育改革ICT戦略大会

於 アルカディア市ヶ谷(東京、私学会館)

はじめに(私がこの3日間で感じたこと)

1. 絶望的な気持ちになったということ
2. 追いかける準備を整えているということ
3. 色々とお教えいただきたいということ

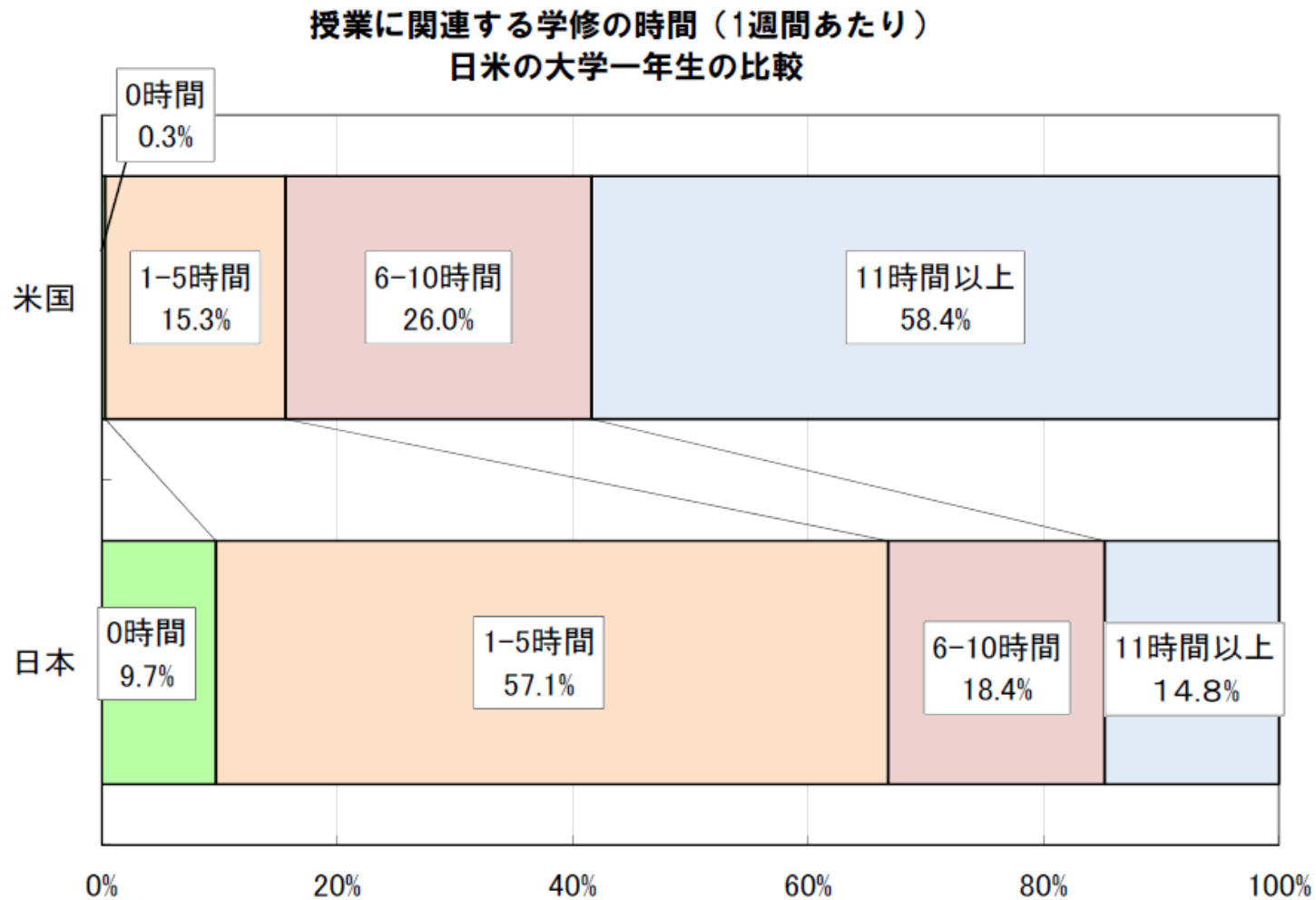
紹介させていただきたいこと

- ① 東北地方の総合私立大学の学習時間の現状および
e-ラーニングを経済学部で採用しなかった理由
- ② 専門科目における事前事後学習は効果
- ③ 推計結果が、誰に何が効果があったことを示しているか？

本日の流れ

1. 経済学部でのLMS 導入の目的
2. 導入後の経済学部の取り組みの紹介
3. 事前・事後学習の効果の紹介(専門科目)
4. 教養科目での使用例
5. まとめ

1. はじめに(LMS導入の目的(1))



(出所) [学生の学修時間の現状 - 文部科学省](#)

1. はじめに(LMS導入の目的(2))

1. 学生の学習時間の実態

問4-1「あなたは、平均すると1回の授業につき、予習・復習や関連学習をどのくらいしましたか。」有効回答数38704

回答:まったくしていない 34.3% 30分未満 28.3%

(2015年度授業改善のための授業アンケート)

→ 60%以上がほとんど勉強していない…。

1. はじめに(LMS導入の目的(2))

1. 学生の学習時間の実態

問4-1「あなたは、平均すると1回の授業につき、予習・復習や関連学習をどのくらいしましたか。」有効回答数38704

回答:まったくしていない 34.3% 30分未満 28.3%

(2015年度授業改善のための授業アンケート)

→ 60%以上がほとんど勉強していない。

2. 入学学生の基礎学力不足と経済学部選択理由

3. 経済学の学問体系

理論 数学的なミクロ経済学・マクロ経済学からの積み上げ式

1. はじめに(LMS導入の目的(2))

1. 学生の学習時間の実態

問4-1「あなたは、平均すると1回の授業につき、予習・復習や関連学習をどのくらいしましたか。」有効回答数38704

回答:まったくしていない 34.3% 30分未満 28.3%

(2015年度授業改善のための授業アンケート)

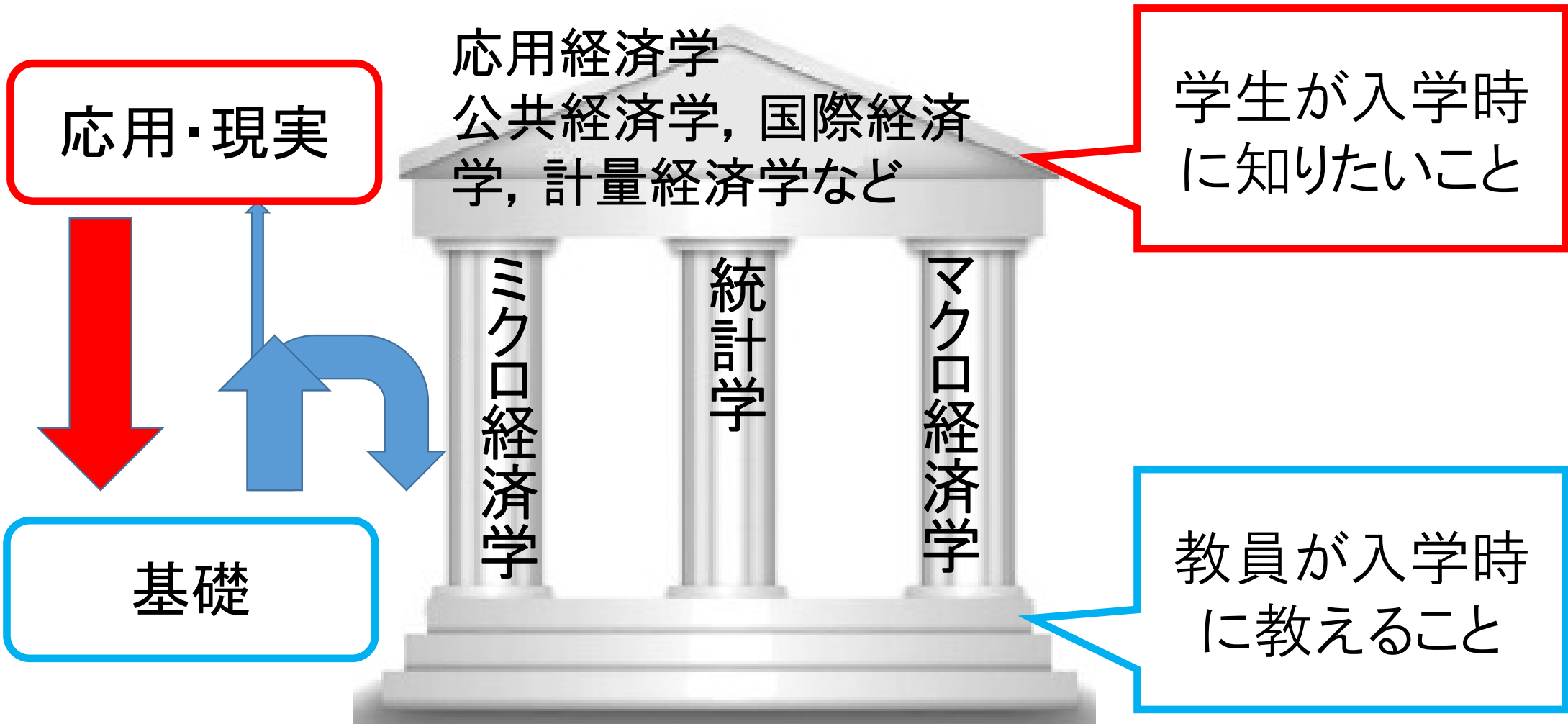
→ 60%以上がほとんど勉強していない。

2. 入学学生の基礎学力不足と経済学部選択理由

3. 経済学の学問体系

理論 数学的なミクロ経済学・マクロ経済学からの積み上げ式

1. はじめに(経済学の学問体系)



1. はじめに

1. 学生の学習時間の実態

問4-1「あなたは、平均すると1回の授業につき、予習・復習や関連学習をどのくらいしましたか。」有効回答数38704

回答:まったくしていない 34.3% 30分未満 28.3%

(2015年度授業改善のための授業アンケート)

→ 60%以上がほとんど勉強していない。

2. 入学学生の基礎学力不足

3. 経済学の学問体系

理論 数学的なミクロ経済学・マクロ経済学からの積み上げ式

4. 1教室あたりの学生数が多い。= 個別講義が難しい。



【マンキュー経済学】は、世界中で広く使われている経済学教科書のベストセラーであり、日本語訳を含めすでに17カ国語に翻訳されている。本書の特徴は、経済学の基本理論を明快に解説するとともに、それを数値を応用して、経済学の実証的側面によって解説している点にある。最初の章は、経済学のエッセンスを「十大原理」にまとめ、経済学とは何かを簡潔に示している。ミクロ編は、まず需要・供給の理論から始めて、この法則の適用可能な諸問題を論じ尽くし、その後企業と消費者の行動理論を解説している。この構成は、初学者に経済学を親しみやすくするために、経済学の現実関連性をわかりやすくしている。

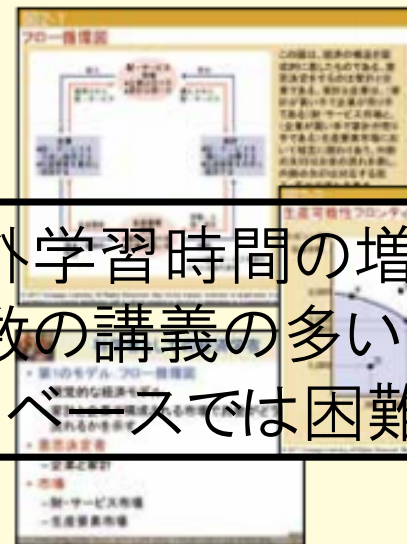
を「十大原理」にまとめ、経済学とは何かを簡潔に示している。ミクロ編は、まず需要・供給の理論から始めて、この法則の適用可能な諸問題を論じ尽くし、その後企業と消費者の行動理論を解説している。この構成は、初学者に経済学を親しみやすくするために、経済学の現実関連性をわかりやすくしている。

1. はじめに(LMS導入の目的)

マンキュー経済学シリーズ 補助教材のご案内

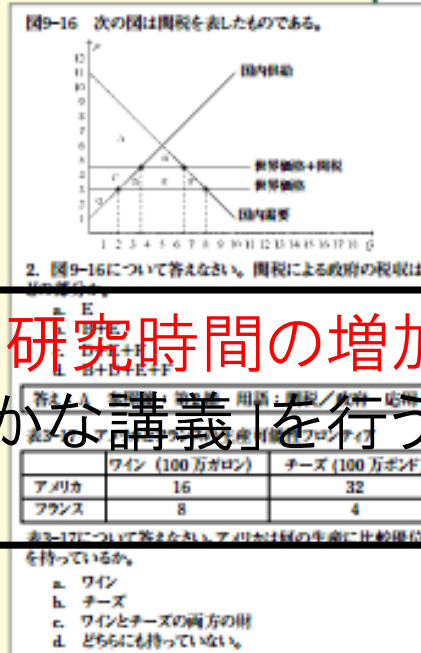
■講義用パワーポイント

- 教科書に完全に対応した講師用PPTスライド
- 1章あたり約40枚程度の丁寧な説明



■TestBank

- 完全テキスト対応で、1章あたり100問の設問を用意
- 節ごとに構成されており、使いやすい内容構成
- 問題の種類が豊富で、例題・練習問題・選択問題(4択)・75問・正誤問題・記述問題・22問・3問・定期テスト・小テスト・講義の授業における復習テストや確認テストなどの小テスト・また宿題にと、幅広い活用ができる内容



□ 授業外学習時間の増加(だけでなく、教員の研究時間の増加も！)
⇒ 大人数の講義の多い経済学部で「きめ細やかな講義」を行うことができる。(ペーパーベースでは困難！)

マンキュー経済学シリーズのテキストをご採用いただいた先生に配布しています。

1. はじめに(LMS導入の経緯)

(1) 2014年8月:

マンキューラーニングの紹介(東洋経済・朝日ネットによる説明会)

(2) 2014年9月:

マンキューラーニングの試験導入(学部2年生対象), マンキューラーニングの経済学部デモ会

(3) 2015年1月:

経済学部全体への紹介, 教職課程センターへのmanaba導入のヒアリング

(4) 2015年9月:

TG Grand Vision(5カ年計画)への導入, 経済学部e-learning委員会の設置

(5) 2016年4月

manabaの運用開始

本日の流れ

1. 経済学部でのLMS 導入の目的
2. 導入後の経済学部の取り組みの紹介
3. 事前・事後学習の効果の紹介(専門科目)
4. 教養科目での使用例
5. まとめ

本日の流れ

1. 経済学部でのLMS 導入の目的
2. 導入後の経済学部の取り組みの紹介
3. 事前・事後学習の効果の紹介(専門科目)
4. 教養科目での使用例
5. まとめ

2. 経済学部取り組み：導入科目

1. マンキュラーニング利用可能科目（基盤科目）

ミクロ経済学入門・マクロ経済学入門（1年生時での繰り返し学習）

2. 大講義系の科目（応用科目）

経済政策論，政治経済学，計量経済学，日本経済論，
国際経済学など

3. 教養科目

研究・発表の技法（研究の方法・発表の仕方を学ぶ科目）

＊ 学生の勉強時間を（無理やり）増やすことで，
教養科目⇒基盤科目⇒応用科目 への接合の重要性に気づく学生を増やす！
（本当に効果があるのか？）

2. 経済学部取り組み：利用法の例

1. 経済統計学I:

講義開始時の10分間で小テスト ⇒ 15回分で評価とする。

2. 経済政策論I:

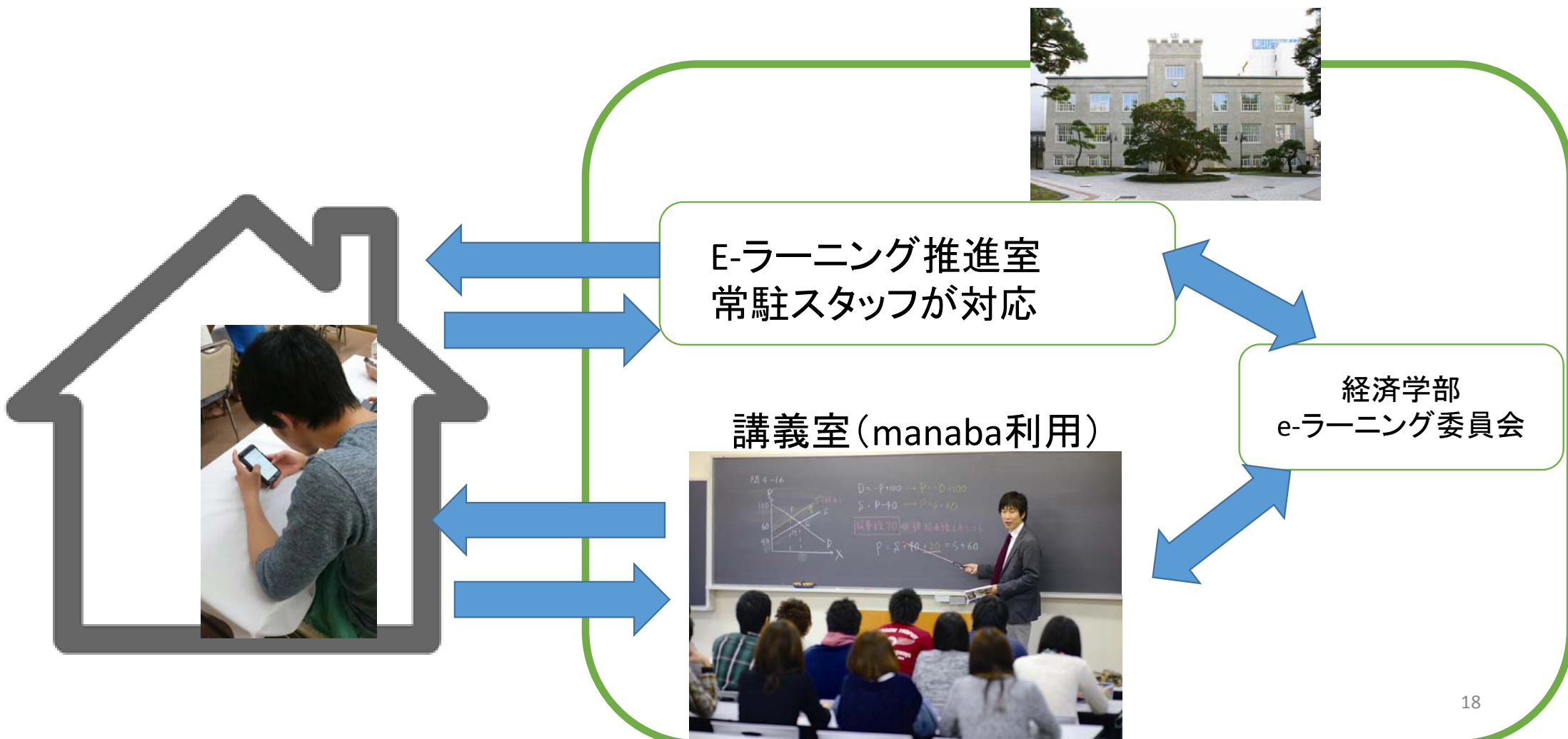
講義資料配布, 講義内容についてのニュースの配布

3. 国際経済学I:

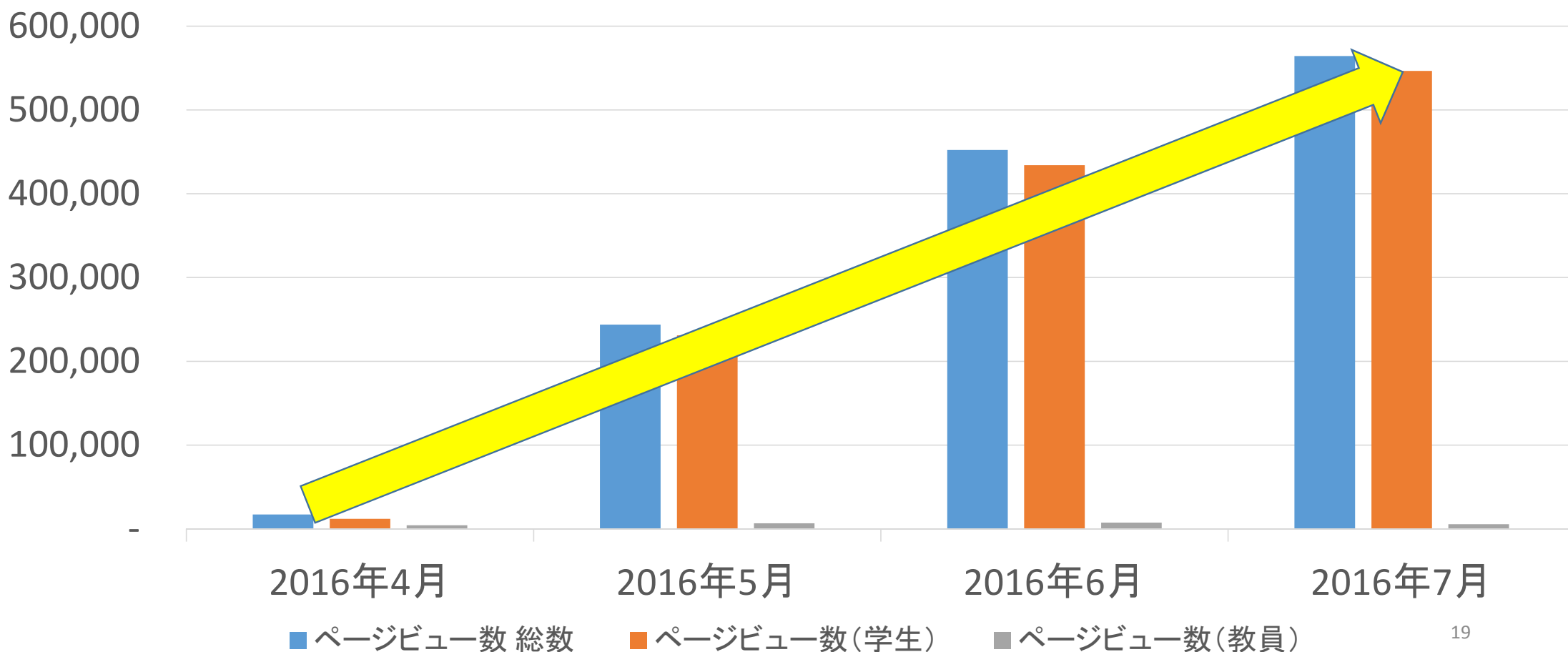
講義資料配布, 授業開始時10分間のテスト, 授業後の練習問題

* 問題の質問などは, 学生からアクセスがある。

2. 経済学部取り組み：現在の運用体制（1）



2. 経済学部取り組み：閲覧数の推移



2. 経済学部取り組み：学生アンケートの実施(1)

1. アンケート実施日：2016年7月15日(金)～7月21日(木)

2. 対象者：

経済学部1、2年生、国際経済学Ⅰ、資本主義経済入門Ⅰ、経済統計学Ⅰ、ミクロ経済学入門Ⅰ マクロ経済学入門Ⅰを受けている学生

2. 経済学部取り組み：学生アンケートの実施(2)

問1.あなたの性別を選択してください。

問2.あなたの学年を選択してください。

問3.あなたの学科を選択してください。

問4.manabaにログインしたことはありますか。

問5.manabaは何を使用してログインしますか。【複数回答】

問6.manabaを授業外で使うとき、どこで使用しますか。【複数回答】

問7.manabaは週に何回使用しますか。

問8.manabaを使用するようになり、授業外学習時間は増えましたか。

問9.manabaを使用するようになり、講義の理解度は高まりましたか。

問10.mananbaを使用するようになり、教員とのコミュニケーションが増えましたか。

問11. 1年生のときと比べて、manabaの導入によって学習環境は良くなりましたか。

2. 経済学部取り組み：学生アンケートの実施(2)

問1.あなたの性別を選択してください。

問2.あなたの学年を選択してください。

問3.あなたの学科を選択してください。

問4.manabaにログインしたことはありますか。

問5.manabaは何を使用してログインしますか。【複数回答】

問6.manabaを授業外で使うとき、どこで使用しますか。【複数回答】

問7.manabaは週に何回使用しますか。

問8.manabaを使用するようになり、授業外学習時間は増えましたか。

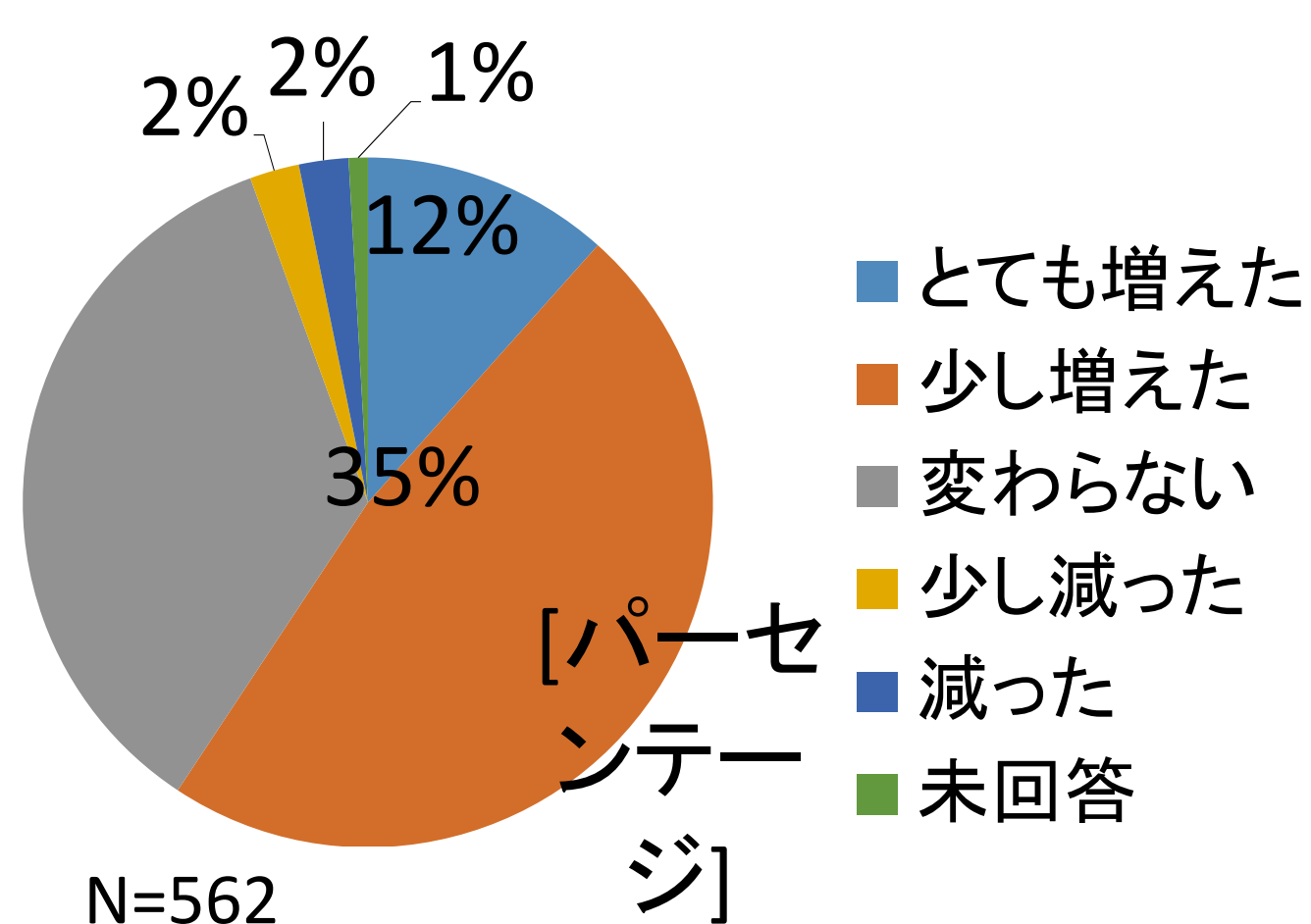
問9.manabaを使用するようになり、講義の理解度は高まりましたか。

問10.mananbaを使用するようになり、教員とのコミュニケーションが増えましたか。

問11. 1年生のときと比べて、manabaの導入によって学習環境は良くなりましたか。

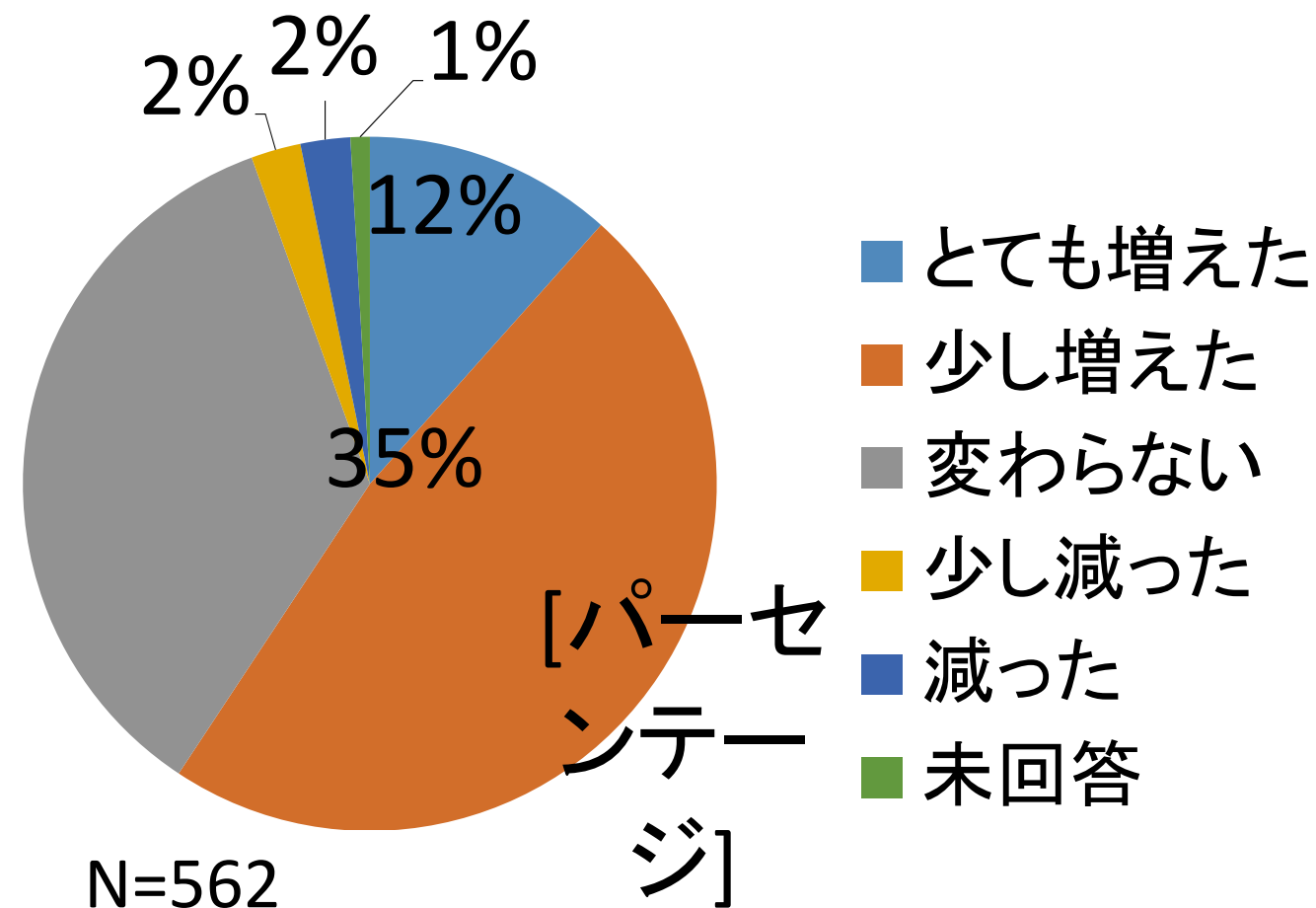
2. 経済学部取り組み：学生アンケート結果(1)

問8.manabaを使用するようになり、授業外学習時間は増えましたか。



2. 経済学部取り組み：学生アンケート結果(2)

問9.manabaを使用するようになり、講義の理解度は高まりましたか。



□ 結果

1. 授業外学習時間について、60%の学生が「とても増えた」、または、「少し増えた」と回答

2. 講義理解度について、60%の学生が「とても増えた」、または、「少し増えた」と回答

* 学生側から見たときの導入による変化があった

2. 経済学部取り組み：学生アンケート結果(3)

問10. 自由記述

・ポジティブ

1. 理解度を深めるために、とても良いシステムだと思います。自動採点であればすぐに解答の確認ができるので非常にありがたいと感じます。
2. 学習意欲が高まりました。
3. 画期的なシステムでとてもいいと思いました。もっと活用していきたいと思います。

・ネガティブ

1. 一気にアクセスすると通信が遅くなることがある改善して欲しい
2. ログインするのが面倒くさい
3. マナバシステムのログイン不具合や制限時間の勘違い、先生の出題ミス、多くのデメリットだらけなのでやめてほしいです。

本日の流れ

1. 経済学部でのLMS 導入の目的
2. 導入後の経済学部の取り組みの紹介
3. 事前・事後学習の効果の紹介(専門科目)
4. 教養科目での使用例
5. まとめ

3. 事前・事後学習の効果の紹介： 経済学学習のICTの先行研究

1. 授業デザインの紹介： 児島(2015)

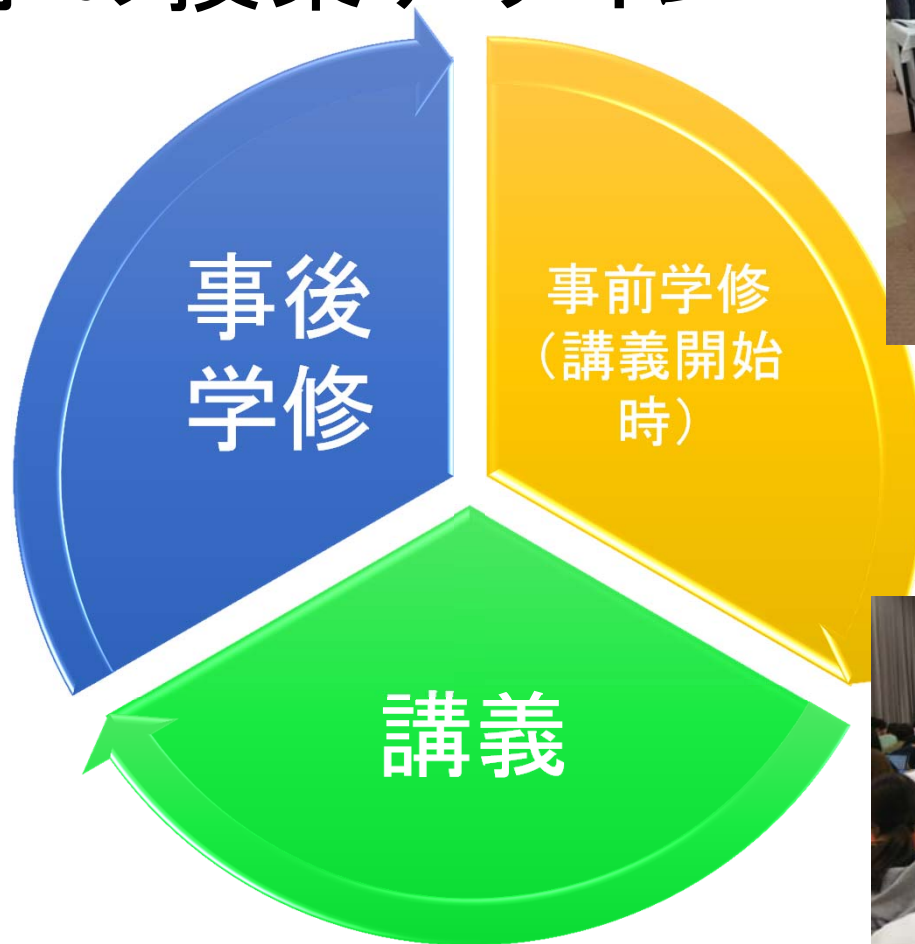
「大教室における学修支援システムを活用した基礎知識定着の試み」,
JUICE Journal , pp.17-20.

2. E-ラーニングの効果

(1) 巽・児玉 (2013) , 「経済学基礎学力によるe-ラーニングの教育効果の相違に関する分析」, 経済論集 38(2), pp. 29-36, 東洋大学

(2) 児玉・巽 (2014) , 「学習意欲に応じたe-ラーニングによる学習支援に関する考察」 , 経済論集, 39(2), pp.211-220,, 東洋大学

3. 事前・事後学習の効果の紹介： 国際経済学の授業デザイン



← → ↻ https://tgec.manaba.jp/ct/course_19961 ☆ ≡

アプリ ★ Bookmarks Tohoku Gakuin Univ manaba - home

東北学院大学 経済学部 2016-09-05 (Mon) 篠崎 剛 | 設定 | ログアウト

マイページ コース メモ一覧 English

国際経済学 I コース設定 担当教員: 篠崎 剛
2016 前期 火曜 2限

小テスト アンケート レポート プロジェクト 成績 掲示板 コースコンテンツ

コースメンバーリスト

コースニュース コースニュース追加

- 政治献金の練習問題の答えの訂正 2016-07-27
- 資料のアップロード (二国最遠関税) 2016-07-18
- 【連絡】明日の資料をアップロードしまし... 2016-06-20
- 0607 二国貿易均衡 国際経済学 2016-06-05
- 国際経済学 配布資料 閉鎖経済と小国開... 2016-05-30

コースニュース管理 コースニュース一覧

スレッド (更新順) スレッド作成

- 小テストについて 2016-08-01
- 0726、6コマ 授業中練習問題 (大国関税... 2016-07-29
- なし 2016-07-28

スレッド一覧

コンテンツ (更新順) コンテンツ作成

大国 最遠関税
2016-07-18 20:56

輸入数量割り当て
2016-07-05 10:50

政治経済学と国際...
2016-07-04 14:46

小国関税
2016-06-20 16:12

コンテンツ一覧

manaba - course

← → ↻ https://tgec.manaba.jp/ct/course_19961_queryadm_examlist ☆ ≡

アプリ ★ Bookmarks 🌐 Tohoku Gakuin Univ 🏠 manaba - home

No.	タイトル	前提条件	期間	公開/非公開	管理
1	自動採点 第4回 授業後練習問題（需要曲線と...	-	受付終了 2016-05-13 07:15～ 2016-08-31 07:15	公開 非公開 🔔	163名 ⚙️
2	自動採点 0524 授業前復習問題（消費者余剰）	-	受付終了 2016-05-23 20:20～ 2016-08-31 20:20	公開 非公開 🔔	185名 ⚙️
3	自動採点 第5回 授業後 練習問題	-	受付終了 2016-05-23 21:20～ 2016-08-31 21:20	公開 非公開 🔔	163名 ⚙️
4	自動採点 0531 授業前復習問題	-	受付中 2016-05-31 10:20～	公開 非公開 🔔	179名 ⚙️
5	自動採点 0607 授業後復習問題（小国開放経済）	-	受付中 2016-06-07 12:05～	公開 非公開 🔔	152名 ⚙️
6	ドリル 練習問題	-	受付中 2016-06-05 22:37～	公開 非公開 🔔	127名 ⚙️
7	自動採点 0607 授業前復習問題（閉鎖経済均衡）	-	受付中 2016-06-07 10:47～	公開 非公開 🔔	168名 ⚙️
8	自動採点 0614 授業前復習問題（小国貿易利益）	-	受付中 2016-06-14 10:50～	公開 非公開 🔔	158名 ⚙️
9	自動採点 【発展問題】 0614 授業前練習問題（...	-	受付中 2016-06-14 09:14～	公開 非公開 🔔	145名 ⚙️
10	自動採点 0614 授業後復習問題（二国貿易均衡）	-	受付中 2016-06-14 12:27～	公開 非公開 🔔	147名 ⚙️
11	自動採点 621 授業後復習問題（小国関税政策）	-	受付中 2016-06-21 16:10～	公開 非公開 🔔	140名 ⚙️
12	自動採点 0705 授業前復習問題（関税政策）	-	受付中 2016-07-05 10:50～	公開 非公開 🔔	160名 ⚙️
13	自動採点 0705 授業後復習問題（輸入数量規制）	-	受付中 2016-07-09 09:38～	公開 非公開 🔔	134名 ⚙️
14	自動採点 0712 【応用】 授業前復習問題	-	受付中 2016-07-12 10:49～	公開 非公開 🔔	160名 ⚙️
15	自動採点 0712 【基本】 授業前復習問題	-	受付中 2016-07-12 10:50～	公開 非公開 🔔	166名 ⚙️
16	自動採点 0719 授業前復習問題	-	受付中 2016-07-19 10:49～	公開 非公開 🔔	161名 ⚙️

でいいん

授業前復習問題の一例

2. 自由貿易状態から関税を課すことで増加するものを選びなさい。複数選択問題

1.2

1.2

- 1. ☐ 消費者余剰
- 2. ☐ 生産者余剰
- 3. ☐ 関税収入
- 4. ☐ 社会的余剰

3. 自由貿易状態から輸入数量割り当てを行うことで増加するものを選びなさい。複数選択問題です。(選択必須)

1.3

授業後復習問題の一例

(2) 閉鎖経済から開放経済への移行した際、世界市場の財価格は10であった。この小国の貿易量はいくらか求めなさい。

1.2

(半角英数字にて記入)

(3) 輸入数量割当を行うことで輸入量を20単位に減少させることを考える。

(3-1) 財価格が10であるとき生じていることを漢字で示しなさい。

超過1.3

(全角二文字にて記入)

(3-2) 均衡価格を求めなさい。

1.4

(半角英数字にて記入)

A国の需要関数を $D(A)=300-p$ 、供給関数を $S(A)=p$ とし、B国の需要関数を $D(B)=100-p$ 、供給関数を $S(B)=p$ とする。世界均衡価格は100となり、A国が財の輸入国となることは確認された。

(1) 輸入関税を40課すと世界均衡価格はいくらになるか 10点 (半角英数字)

👉 $D(A)+D(B)=S(A)+S(B)$ を満たすように決まる。ただし、A国で消費者と企業の直面する価格は p +関税となっていることに注意すれば、 $300-(p+\text{関税})+100-p = (p+\text{関税}) + p$ を満たすことが必要となる。これを解くと、 $p=100 - (1/2)\times\text{関税}$ となる。関税は40であるので、 $p=100-20=80$ となる。

(2) A国とB国で直面する財の価格はいくらか

A国 10点 (半角英数字)

B国 10点 (半角英数字)

👉 A国では p +関税価格=80+40で取引されており、B国では $p=80$ で取引されています。

3. 事前・事後学習の効果の紹介： e-ラーニングの効果の測定(1)

□ 分析目的:授業外学習の効果はICT教育によって得られるか？

1. 分析対象科目:国際経済学Ⅰ(水曜日2コマ)

2. テスト受験者:214名(受講生:232名)

3. 評価方法:テストのみ

3. 事前・事後学習の効果の紹介： e-ラーニングの効果の測定(2)基本統計量

	授業不参加	受験者	授業参加者	授業復習者
平均	45.16	51.49	52.86	57.46
最頻値	22	46	66	65
標準偏差	16.21	15.75	15.35	13.67
最小	21	14	14	28
最大	85	92	92	87
標本数	38	214	176	56

	授業参加	何もしない		授業後	何もしない		事前学習	事後学習
平均	52.86	45.15	平均	57.46	45.15	平均	52.86	57.46
分散	235	262	分散	187	262	分散	235	187
観測数	176	38	観測数	56	38	観測数	176	56
t	2.681		t	3.842		t	-2.126	
P(T<=t) 片側	0.004		P(T<=t) 片側	0.000		P(T<=t) 片側	0.017	
t 境界値 片側	1.674		t 境界値 片側	1.666		t 境界値 片側	1.659	
P(T<=t) 両側	0.009		P(T<=t) 両側	0.000		P(T<=t) 両側	0.035	
t 境界値 両側	2.006		t 境界値 両側	1.994		t 境界値 両側	1.983	

3. 事前・事後学習の効果の紹介： e-ラーニングの効果の測定(2)基本統計量

	授業不参加	受験者	授業参加者	授業復習者
平均	45.16	51.49	52.86	57.46
最頻値	22	46	66	65
標準偏差	16.21	15.75	15.35	13.67
最小	21	14	14	28
最大	85	92	92	87
標本数	38	214	176	56

3. 事前・事後学習の効果の紹介： e-ラーニングの効果の測定(2)

□ 分析目的: 授業外学習の効果はICT教育によって得られるか？

・説明変数と符号条件

① e-ラーニング(Manaba)総得点:

授業前と授業後の練習問題を(初回に解いた)総得点

普段から学習している学生ほど総得点は上がる。⇒期末試験にプラス

② 授業参加ダミー

授業開始時にe-ラーニング(Manaba)を用いて勉強した学生

授業に参加している ⇒ 期末試験に？

(牧野(2000)は出席管理をしている講義は成績と弱い正の相関)

③ 授業後ダミー

授業後1週間以内にe-ラーニング(Manaba)を用いて勉強した学生

普段から勉強している ⇒ 総得点にプラス

3. 事前・事後学習の効果の紹介： (e-ラーニングとテストの相関)

成績上位層(n=107)		
	「国際経済学I」得点	e-ラーニング総得点
「国際経済学I」得点	1	
e-ラーニング総得点	0.286514381	1

成績下位層(n=107)		
	「国際経済学I」得点	e-ラーニング総得点
「国際経済学I」得点	1	
e-ラーニング総得点	0.00367634	1

3. 事前・事後学習の効果の紹介： 重回帰分析（成績下位（下から50%）層）

変数	係数	標準誤差	t値	有意確率
（定数）	43.04	2.68	16.190	0.000
e-ラーニング総得点	-0.050	0.20	-0.240	0.810
授業前ダミー	3.33	3.29	1.010	0.314
授業前・授業後ダミー	1.72	4.66	0.369	0.712
調整済み決定係数	-0.01		観測数	106

事前事後学習の結論（1）

成績下位層では、e-ラーニング（=manaba）の効果は事前・事後ともに見られない。

3. 事前・事後学習の効果の紹介： 重回帰分析（成績上位層）

変数	係数	標準誤差	t値	有意確率
（定数）	48.14	7.06	6.823	0.000
e-ラーニング総得点	0.28	0.09	3.190	0.002
授業前ダミー	-4.97	6.29	-0.789	0.432
授業前・授業後ダミー	5.42	2.72	1.994	0.049
調整済み決定係数	0.09		観測数	106

3. 事前・事後学習の効果の紹介： 重回帰分析（成績上位層）

変数	係数	標準誤差	t値	有意確率
（定数）	48.14	7.06	6.823	0.000
e-ラーニング総得点	0.28	0.09	3.190	0.002
授業前ダミー	-4.97	6.29	-0.789	0.432
授業前・授業後ダミー	5.42	2.72	1.994	0.049
調整済み決定係数	0.09		観測数	106

3. 事前・事後学習の効果の紹介： 重回帰分析（成績上位層）

変数	係数	標準誤差	t値	有意確率
（定数）	48.14	7.06	6.823	0.000
e-ラーニング総得点	0.28	0.09	3.190	0.002
授業前ダミー	-4.97	6.29	-0.789	0.432
授業前・授業後ダミー	5.42	2.72	1.994	0.049
調整済み決定係数	0.09		観測数	106

事前事後学習の結論（2）

成績上位層では、e-ラーニング(=manaba)の効果は事前・事後学習をした学生ほど期末試験の点につながる。

3. 事前・事後学習の効果の紹介： 重回帰分析（成績上位層）

変数	係数	標準誤差	t値	有意確率
（定数）	48.14	7.06	6.823	0.000
e-ラーニング総得点	0.28	0.09	3.190	0.002
授業前ダミー	-4.97	6.29	-0.789	0.432
授業前・授業後ダミー	5.42	2.72	1.994	0.049
調整済み決定係数	0.09		観測数	106

注意： この因果関係が正しいかどうかは注意が必要。

LMSで効果があったのか，そもそもまじめな学生は点数がよく，manabaの問題も解いている可能性がある。

⇒ 検証方法：DIDにて，追跡研究をする必要がある。

前期はまじめに勉強したが，後期にサボった学生とそうでない学生の区別。

3. 事前・事後学習の効果の紹介： 結果の使い方

- 後期の履修者（および学部）へ提案

【行うこと】

分析結果を履修者へ講義において見せる

【狙い】

- ① 普段の学習態度が成績に反映されること
- ② 普段から学習している学生が半分くらい“同じクラスにいる”ことを見せる（= **ピアグループ効果を使う**）。

本日の流れ

1. 経済学部でのLMS 導入の目的
2. 導入後の経済学部の取り組みの紹介
3. 事前・事後学習の効果の紹介(専門科目)
4. 教養科目での使用例
5. まとめ

	授業計画	提出物
1回目	ガイダンス	
2回目	研究レポートの書き方	出席確認のためのノート
3回目	グループ編成、テーマ発表	講義ノート提出①
4回目		課題①
5回目	調査メモ	講義ノート提出②
6回目		課題②
7回目	結論の導出	講義ノート提出③
8回目		課題③
9回目	レポート作成	講義ノート提出④
10回目		レポート提出
11回目	発表の仕方	講義ノート提出⑤
12回目		課題④
13回目		プレゼン
14回目		プレゼン
15回目	まとめ	

4. 教養科目での使用例

1. 講義:「研究・発表の技法」 アクティブ・ラーニング科目

⇒ 15回の講義内容(研究の方法, 論文の書き方および発表の方法)

2. 参考書:木下是雄「レポートの組み立て方」「理科系の作文技術」

3. 使用パターン

【教員側】

manaba上で出席確認とレポート提出

【学生側】

グループ学習のソフト Cybozu の利用の促進

	授業計画	提出物
1回目	ガイダンス	
2回目	研究レポートの書き方	出席確認のためのノート
3回目	グループ編成、テーマ発表	講義ノート提出①
4回目		課題①
5回目	調査メモ	講義ノート提出②
6回目		課題②

1. 事前学習

文章の書き方のポイントなどを授業前に復習させる。

2. 事後学習

「提出物の相互閲覧」によりピア効果を使う。

⇔ 出来ていない学生は公開せず返却する必要がある？

15回目	まとめ	
------	-----	--

本日の流れとそれに対するまとめ

1. 経済学部でのLMS 導入の目的

⇒ 文型の学生の勉強時間を増やし、経済学の思考パターンをつける。

2. 導入後の経済学部の取り組みの紹介

⇒ アンケートにより、学習時間が増えていることを学生が実感。

3. 事前・事後学習の効果の紹介(専門科目)

⇒ ①平均値に差がある。②成績上位者は事前・事後学習の効果があるが下位者はない。

4. まとめ

本日の流れとそれに対するまとめ

1. 経済学部でのLMS 導入の目的

⇒ 文型の学生の勉強時間を増やし、経済学の思考パターンをつける。

2. 導入後の経済学部の取り組みの紹介

⇒ アンケートにより、学習時間が増えていることを学生が実感。

3. 事前・事後学習の効果の紹介(専門科目)

⇒ ①平均値に差がある。②成績上位者は事前・事後学習の効果があるが下位者はない。

4. まとめ

本日の流れとそれに対するまとめ

1. 経済学部でのLMS 導入の目的

⇒ 文型の学生の勉強時間を増やし、経済学の思考パターンをつける。

2. 導入後の経済学部の取り組みの紹介

⇒ アンケートにより、学習時間が増えていることを学生が実感。

3. 事前・事後学習の効果の紹介(専門科目)

⇒ ①平均値に差がある。②成績上位者は事前・事後学習の効果があるが下位者はない。

4. まとめ

本日の流れとそれに対するまとめ

1. 経済学部でのLMS 導入の目的

⇒ 文型の学生の勉強時間を増やし、経済学の思考パターンをつける。

2. 導入後の経済学部の取り組みの紹介

⇒ アンケートにより、学習時間が増えていることを学生が実感。

3. 事前・事後学習の効果の紹介(専門科目)

⇒ ①平均値に差がある。②成績上位者は事前・事後学習の効果があるが下位者はない。

4. まとめ

参考文献

- [1] 児島完二. (2015)「大教室における学修支援システムを活用した基礎知識定着の試み」大学教育と情報, 私立大学情報教育協会 151.2 13-16.
- [2] 巽靖昭・児玉俊介. (2013)「経済学基礎学力によるeラーニングの教育効果の相違に関する分析—学部2年次「マクロ経済学」に関するケーススタディー」経済論集= *The Economic Review of Toyo University*, 38(2), 211-220.
- [3] 児玉俊介・巽靖昭. (2014)「学習意欲に応じたeラーニングによる学習支援に関する考察」経済論集= *The Economic Review of Toyo University* 39.2 pp. 29-36.
- [4] 牧野幸志. (2000)「学生による授業評価と自己評価, 成績, 及び学生の満足感との関係—専門必修科目「人間関係論」の場合—」高松大学紀要 35.31 : 31.